

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401780		
法人名	㈱くらはら		
事業所名	グループホーム あざみの里		
所在地	長崎県南島原市深江町戊3124-3		
自己評価作成日	平成 30年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成 31年 2月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 30年 12月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である「時間をかけて見守り、声かけして付き添う・拘束のない介護・個人生活の継続」利用者の状態、状況に応じた支援を行い、可能な限り、自立支援をして、利用者の尊厳を重んじ、家族の様な雰囲気ですぐに接し、安心、安全に毎日を暮らせるように支援している。
 利用者の健康管理に注意し、転倒防止と、病気の早期発見に心がけています。
 ご家族の方が面会に来やすい雰囲気作りと、地域の中でいつでも立ち寄れる開かれた施設作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設14年目を迎える当ホームはゆったりとした空間を大事に建てられており、広い敷地内に本館と新館がある。ホーム周辺には雲仙普賢岳災害後に移住された方も多く、ホームが地域行事や自治会活動に積極的に関わることにより顔が見える関係が構築され、地域の方のホームへの理解も深まりをみせている。ホームでは気さくで明るい施設長と管理者のもと、職員との横のつながりを意識しながら日々の支援に取り組んでおり、入居者の暮らしを主体とした家庭的な温かさを感じる支援の展開が窺える。現在、施設長や管理者は職員の人材育成に取り組まれており、職員のアイデアを積極的に取り入れ、職員自らが考えて行動できる雰囲気づくりに努めている。職員は入居者それぞれの思いやこだわりの理解に努め、入居後もその方らしい暮らしが継続できるよう取り組んでいる。食事の場面でも入居者がお互いを気遣い支え合う姿や、できるだけ歩行できる力を維持できるよう職員が入居者と向き合う姿勢が窺え、今後ますます期待の持てる事業所と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 あぎみの里 本館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人生活の継続の理念のもと、毎週月曜日、朝礼時に唱和を行い、全職員が常に念頭に置き、共有し、日々、実践につなげている。	ホームでは毎朝の唱和で職員への理念の意識付けが図られ、日常の行動や支援の方向性の統一へと繋げている。施設長や管理者は現場に入り、価値観や行動規範を率先して示し、職員の模範となるよう努められている。ホームでは入居者に時間をかけて寄り添いながら、入居者個々の立場での支援に繋げる取り組みがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に入っており、回覧板をまわしたり、地域の清掃にも参加している。事業所自体が地域の一員として、日常的に交流している。	ホームは住宅地の一角にあることから自治会活動に積極的に参加しており、地域行事を通じて職員・入居者ともに地域住民との密接な関わりが持たれていることが窺える。自治会長は元看護師長であることから高齢者福祉にも理解が深く、入居者の現状の理解や有事の際には協力いただける関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事や催し物に、近隣の方々を案内し、食事会や演芸で歓楽されている。地域の方の相談を受けたり、認知症の人の理解や支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催している。家族、地域の代表と、行政職員が参加され、利用者の状態や、行事等を報告し、話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、和やかな雰囲気の中で活発な意見が交わされ、議事録からも参加者がホーム運営に関心を持って関わっている様子が窺える。会議では、施設長及び管理者が入居者の日々の暮らしぶりを写真で示すとともに、地域や家族に向けて運営状況の具体的な説明を行うことで透明性を図り、様々な意見を反映させながら信頼に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者と、日頃から連絡をとり、事業所の実情や、相談を行い、行政の情報を得たりして、協力関係を築くよう取り組んでいる。	施設長は、介護保険に関する提出資料を直接担当者へ届けることで顔が見える関係を築いており、相談事や課題についても早急に解決できるよう努めている。また、行政からの指導についても真摯に受け止めるとともに積極的な改善に取り組み、行政との話し合いを多く持つよう努めている。現場の課題やニーズをホーム運営に反映させるよう日々取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、身体拘束委員会を設置し、研修や勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームでは身体拘束のない介護を理念に掲げ、行動障害がある入居者への対応方法を職員間で話し合い、入居者の不安に寄り添った支援に努めている。今年度より身体拘束廃止委員会を立ち上げ、職員会議で指針や身体拘束に対する考え方、身体拘束の具体例を再確認する機会を設けた。現在該当者はいないが、今後も勉強会を重ねて職員間で意識を持って対応する意向にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は、高齢者虐待防止について、絶対にあってはならない行為を、職員会議や機会がある度に話し合い、見過ごさないよう注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は、権利擁護に関する研修会を受講し、職員会議で資料を配布し、学びを共有し、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時、重要事項説明書で契約内容を十分に説明を行い、利用者、家族の不安や疑問を尋ねて説明し、ご理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見は、いつでも管理者や職員に話して頂き、また外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員は家族のような和気あいあいとした雰囲気や和気な大事にし、小さな気づきや家族の不安を汲み取りながら家族とともに本人を支えられるよう努めている。家族との関係性も良好で、受診の際の受付を家族が担ってくださるなど接点も多く、家族の信頼や安心が得られていることが窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	施設長や管理者は現場で職員との関わりを持って職員の個性や働き方の意向把握に努めるとともに、職員の持つ力を発揮できる職場づくりに繋げている。現在は次世代の職員育成について、研修や学びの機会を多く作りながら職員相互の経験や知見の共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の有する能力や実績、勤務状況を把握し、職員がいきいきとやりがいや、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、資格取得に向けた取り組み、働きながらトレーニングをしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設事業所の研修を通じ、交流する機会を作り、ネットワークづくりや相互訪問をし、意見の交換を行い、サービスの質を向上させていくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化により、体調や精神的な不安、困っていることに耳を傾け、会話や行動を通し、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや、不安なこと、要望等に耳を傾け、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後の1か月間程度は、時間をかけて、ゆっくり支援しながら「その時」必要な支援を見極め、他のサービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる能力を導き、手伝いや一緒に1日を過ごしながら、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、状況を伝えて、家族との関係を大切にしながら、お互いがゆっくりと話せるように支援する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた家へドライブへ出掛けたり、知人や友人が面会に来て、思い出の話をしたりされ、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所が途切れない様に支援に努めている。	ホームには家族や知人の訪問も多く、職員はホームが自宅と同じであると捉えて来客者に対して気軽に足を運んでいただけるよう取り組まれている。面会には制限はなく、入居者がこれまでに大事にしてきた繋がりを入居後も継続できるよう、職員は入居者とともに楽しみながら対応に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者一人一人が孤立しない様、利用者同士が交流でき、楽しく過ごせる様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外部でお会いした時は、挨拶し近況を伺い、これまでの関係を大切にしながら、ご家族が何でも相談できる様、フォローや支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方を尊重し、希望、意向の把握に努め、必ず言葉かけを行ってから、介護にあたり利用者の状態を観察し、理解を得る様努力している。	職員はユマニチュードという手法を用いて、入居者それぞれに届く話し方や触れ方に考慮したその方の日課やこだわりへの理解に努めている。職員による声掛けの際もその方の生活歴を理解した上で会話されている様子が窺え、入居者自身が心をほぐしながら会話されている様子を確認することができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を家族から伺い、情報シートに記入してもらい情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりが個々のペースで生活できる様支援している。そして有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のモニタリングを行い、本人がより良く暮らす為の課題とケアの在り方について必要な関係者や本人と話し合い、現状にあったケアが出来る様している。	計画作成担当者はケアプラン作成の際、専門用語の使用を控えた入居者や家族の意向を汲み取った誰もが理解しやすい内容となるよう努めている。年に1回程度入居者の心身の状況を振り返りながら再アセスメントを行い、入居者が抱える課題分析に努めている。また、生活記録に本人の発した言葉や支援状況を残しながら、計画が本人の負担になっていないかを確認し、次回計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様々な気付きを申し送り、ノートに記入したりして、職員間で情報を共有しながら常に話し合い、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小、中学校の福祉体験や学習発表や自治会との関わりで本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を重んじ、かかりつけとの医との良い関係を築きながら、適切な医療が受けられる様支援している。	ホームでは、家族の協力も得ながら入居前からのかかりつけ医を継続して受診できるよう取り組まれている。受診の際には家族の立ち会いも多く、職員は入居者の治療方針や体調について家族や医師と情報を共有し、病気の早期発見に繋がるよう努めている。また、ホームは入居者の服薬方法や減薬について薬剤師へ相談を行うなど、その方の身体的な負担に考慮した対応に取り組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の利用者の状態や体調は、職員で観察し訪問看護師等に伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、頻回に面会し、安心して治療を受けられる様、そして早期に退院できる様病院関係者との情報交換や相談を行い、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について本人や家族の意向を尊重し、かかりつけ医と話し合い、施設で出来る事を見極め、今後の変化に備え、検討し取り組んでいる。	ホームでは生活における医療の比重が大きくなるぎりぎりのところまでを支援されており、家族や主治医とともに対応方針の共有が図られている。食事形態やバイタルサインの変化などを医師や医療連携看護師へ報告し指示を仰ぐほか、職員間で話し合いながら対応している現状にある。施設長は、入居者の重度化に伴い看取り対応の必要性を感じており、今後は職員の研修への参加や看取りについての協力体制を整備し、準備していく意向にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防訓練を年に2回行い、火災や地震、水害等の災害時に対応できる様訓練し、地域との協力体制を築いている。	ホームは、雲仙普賢岳災害による溶岩ドームの崩壊など災害発生時における避難誘導方法について意識されている。施設長は今年度、「第一回南島原市深江地区の防災について考える検討会」に参加され、地域や近隣施設と連携を図り協力体制の構築に取り組まれている。ホームではハザードマップを確認し、立地条件や建物の構造上風水害時は地域の避難場所を担う可能性も意識されており、今後は地域を含めた訓練の実施や避難行動の際の話し合いを行う意向にある。	ホームは風水害マニュアル及びハザードマップを整備し有事の際の対応に備えているが、風水害訓練が未実施であることや入居者情報一覧表など、持ち出し品の保管場所の話し合いや職員に向けた意識付けが必要な様子が窺われる。再度マニュアルの確認や避難行動の振り返りを行い、実効性の高い訓練の実施に繋がることを今後期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で言葉に配慮すると共に各々の身体状態に応じた誇りやプライバシーを損ねない様に対応している。	ホームでは入居者の尊厳を重んじた対応を理念に掲げており、職員の入居者に関わる姿勢や個々を大事に思う言葉掛けについて周知徹底がなされている。職員は入居者にとって身近な存在でありたいとの思いから親しみのある雰囲気を取り入れる半面、言葉遣いについて互いに注意を払いながら誇りを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定が出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや、都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にして、本人が毎日をどのように過ごしたいか要望に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、入浴時や行事等に本人の好みの洋服を選んで、おしゃれが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を入れたり、誕生日にケーキ提供したり、片付けが出来る方には手伝って頂いたりしている。	ホームでの食事は、職員が入居者それぞれの食事摂取量を把握し、体調や心身の変化等に対応した量や形を調整したものが準備されている。台所で丁寧に調理された食事は入居者それぞれの適温で家庭的な食器に盛り付けられ、入居者の食べる意欲を引き出す配慮がなされている。温かな雰囲気の中でゆっくりと会話を楽しみ、入居者のペースで食事摂取できる時間が確保されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が1日を通じて確保できる様、一人一人の好みのココア、お茶等提供、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり口腔状態を観察し、汚れや臭いが生じない様本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗や、オムツの使用を減らし、日中はトイレを使用し、一人ひとりの排泄のパターン、習慣を活かして自立にむけた支援を行っている。	ホームでは安易なオムツの使用を避け、生活の中でリハビリを取り入れながらできるだけトイレで排泄できるよう取り組まれている。入居者の羞恥心に配慮した介助方法については話し合いの必要性が窺えるが、職員は入居者の身体状況を理解し介助が必要な部分への支援を行い、自身で排泄の後始末ができるよう入居者の自尊心に配慮した対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、個別に食前にヨーグルト提供して、食事等工夫したりして予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望により変更したり、入浴拒否の場合は、無理強いせず、時間をずらして声かけを行っている。	清潔感のある浴室入口には、入居者が安心して入浴できるよう温かな雰囲気づくりがなされている。入院期間が長く浴槽に浸かることに不安を抱く入居者について、本人が嫌がる要因を分析し不安の解消に繋げた事例があるなど、職員は入居者の心情に寄り添いながら対応方法を臨機応変に検討されていることが窺える。また、入浴を拒否される入居者については、曜日や時間をずらすなど無理強いしないケアに取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度な活動を促し、生活リズムを作る事で安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が把握し、いつでも確認できるファイルに保管し、変更があった時は情報共有し服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意な事を把握し、その方らしく過ごせる役割が持てる場を作りだせる様努め、ドライブ等気分転換となる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い時は、ドライブ、施設内外庭散歩、買い物等出掛けている。	職員は入居者一人ひとりの体調や身体的な負担に配慮し、一緒に出掛けるメンバーや行き先を考慮しながら外出支援に取り組んでいる。ホームは外出先でのその瞬間を楽しんでいただくことを大事にしており、季節に応じて外気浴や庭先でのお茶会を行う等、気軽に季節感を感じることができるよう工夫しながら支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの希望や力に応じて、買い物やお金を所持したり使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人など本人が電話したい時かけ会話されたり、年賀状や手紙のやり取りが出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下の壁に季節感のある飾りや花をおいたりしている。利用者にとって不快や混乱を招くような、刺激がないよう、プライバシー損なわない様配慮している。	職員によって丁寧に整えられたホームリビングは、季節に応じた空調と採光が整備され清潔感を感じさせる場所となっている。入居者が行き交う廊下には和の彩りを基調とした入居者の作品が展示され、入居者や来客者が語り落ち着く雰囲気づくりがなされていることが窺える。また、ベンチで日光浴ができる一角も設けられており、入居者それぞれが好きな場所で寛げる空間が準備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、気の合ったもの同士が思い思い過ごせる様、席の配置を工夫したり、テレビの前を広くし、集まりやすい空間となる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのあるものを持って来て頂き、本人様の状況により、ベッド、タンスの位置にも配慮している。	家族の協力も多く、入居者それぞれに使い慣れた家具や手回り品に囲まれながら入居者が落ち着く居室づくりがなされている。入居者の生活習慣から持ち込み品を家族に提案し、読書や床座で好きな野球を眺めながら過ごす入居者もいらっしゃるなど、それぞれに好きな時間、好きなものに触れながら入居以前の生活が継続して行えるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室が分かる様に大きな字で表示している。食堂、居室には不要な物は置かない様にして、危険防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 あざみの里 新館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に付く場所に掲示しており、個人生活の継続の理念のもと、常に意識して介護に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入っており、町内清掃に参加したり、近隣の方への挨拶を心掛けて行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の福祉体験などで、認知症の方々の理解につながる様、努めている。又、ご家族が認知症で困っている方に相談を受けた時は、きちんと対応をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を実施し、取り組み、利用者の状況について報告し、意見を交換して、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連携に努め、相談をしたり、指導をしてもらったりして、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、拘束委員会を設置し、必要性和実施の有無を常に検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員、高齢者虐待防止について研修などで、学ぶ機会を持ち、職員会議で話し合ったりして、注意をしたりして、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員、権利擁護に関する研修会を受講し、職員会議で学びを共有し、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約時、重要事項説明書で十分に説明を行い、利用者、家族の不安や、疑問などある時は、きちんと対応して、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の方と、信頼関係が築かれるよう心掛けている。ご家族からは面会時等、意見、要望を伺い、その都度対応をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表や管理者は、職員の意見や提案を、職員会議や、機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の努力、実績や勤務状況を把握し、やりがいや各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことができるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会などで、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化により、体調や精神的な不安や困っていることに耳を傾け、安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用までの経緯や、その方の生活歴、ご家族の不安や要望など、入所前に伺うようにして信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後の1か月は、ご本人の状況を把握して、相談内容等から、その時必要な支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活していく中で、何でも話して下さる雰囲気にも努め、出来られない所は支援していく様、支援している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力は必要なので、日々利用者様と向き合い、面会時には、ゆっくり過ごして頂ける様、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の方が、面会に来て下さった際には、ゆっくりして頂ける。又、行きたい場所の要望がある時には、出来るだけ沿う様、支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、体操など参加して頂いたり、好みのTV番組をお知らせして、リビングにて観覧して頂いている。利用者様同士、交流が持てる様、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族が気軽に連絡、相談して頂ける様、努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言語を大事にし、その方に寄り添う支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から伺い、生活歴、生活環境や、サービスの経過等、把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、有する力等の現状の把握に努めている。また状態変化があれば、その都度、対応する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の希望を取り入れ、ケアプランを作成している。状態変化による見直し等、臨機応変に対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別に記録を行い、確実な申し送りを記録して残し、情報を共有している。実践や、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、ご家族の要望に応じて、その人に合った支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練を行ったり、小学生訪問、中学生福祉体験学習など、交流を持つ事より、心が和み、豊かな暮らしを楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望されるかかりつけ医に、定期的に受診している。緊急時にも対応できる様、支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や気付きを報告、相談行いながら、適切な受診、看護が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関である泉川病院には、地域連携室が設けてあり、利用者の状態や早期退院に向け、情報交換・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向を尊重し、出来る限りのケアを主治医指示のもと、施設で行うが、医療的治療が必要な場合は、ご本人、ご家族、主治医を交えて、相談行う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防士の救命救急講習(AEDの使い方、心肺蘇生法等)を定期的を受け、対応できる様備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を行っている。地域の消防団にも協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない様、言葉かけや対応をして、又、方言を使ったりしながら安心感を感じてもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が思いや希望を表したり、出来る事は声かけしながら、自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして、出来る限り希望に沿って、日々の暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者からの申し出に、随時対応して、美容室などへ連絡、介助を行っている。自ら、訴えの出来ない方には、スタッフが整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、楽しみが増える様、旬の野菜を採り入れたりしている。又、利用者と一緒に準備や食事、片付けなどを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた盛り付けをし、摂取量を記録している。水分補給をして、水分不足にならない様、時間を作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常的に、毎食後の口腔ケアの支援しており、本人の力に応じ、仕上げ磨きを支援したり、義歯洗浄出来ない方は、スタッフが洗浄、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけ布パンツで過ごされる様、またなるべくトイレで排泄される様、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを提供している。水分補給もしっかり摂られる様、声かけを行い、体操や廊下の歩行運動等、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回(月・水・金)の入浴日に、利用者の体調や希望に合わせて、支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室になっており、居室で好きな時に休息がとれ、又、共有の部屋で自由に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに挟んだり、薬手帳などで、職員がいつでも確認できる様にしており、内服薬の変更時は、申し送り帳などに書き込んだりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かして、お手伝いをして頂いたり、花を生けてもらったりして、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外気浴やドライブ等に出掛けたりの支援をしている。ご家族の方と外出される人もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方には、所持して頂き、出来ない人は、施設で管理している。希望される時は、買い物に同行して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人に代わり、電話をかけたり、取り次いで話をして頂いたりの支援をしている。出来る方は、自分で電話される事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏はよしずを使用したりして涼を取り、暗くならない様に採光にも気配りをしている。観葉植物や四季折々の花を飾り、居心地の良い環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、安全面にも配慮し、居心地の良いスペースを提供している。独りでTVを観たり、気の合う同士で、会話を楽しまれたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみの物など使用して頂き、居心地良く安心して過ごせる様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置したバリアフリーの建物で、トイレやお風呂の入口に目印をしている。安全で自立した生活が出来るよ様に工夫している。		